

コリント

第二

⑧

「与えられた
ささげる恵み」

コリント人への手紙Ⅱ 8章 マケドニアの信者の献金

Shikaoichurch.com

アウトライン

0. イントロダクション

I. ささげる恵み 1~15節

II. 同労者の推薦 16~24節

III. まとめと適用

聖書の原則に従って献金しよう

**献金について 前半が7章
後半は次回8章**



コリントの手紙第二とは？

- **著者** …使徒パウロ。
- **年代** …第一(55年)の2年後、57年頃。
- **執筆場所** …コリントへの途上、ピリピ。
- **対象** …コリントのキリスト者たち
(離散のユダヤ人と異邦人)
- **目的** …アフターケア。献金の促し。
非難への弁明。再訪問の備え。



パウロのコリント訪問

- ① 最初の訪問 (第二次旅行) ・ 1年半滞在 50年
- ② エペソ滞在中 (第三次旅行) 手紙 A を送付
第一の手紙を送付 54～55年
- ③ 二度目の訪問 (II コリ13:2) 55年
手紙 B (悲しみの手紙) を送付
- ④ コリントへの途上で (ピリピ?)
テトスと合い、現状を聞く
第二の手紙を送付 55～56年
- ⑤ 三度目の訪問 55～56年

7章で触れている

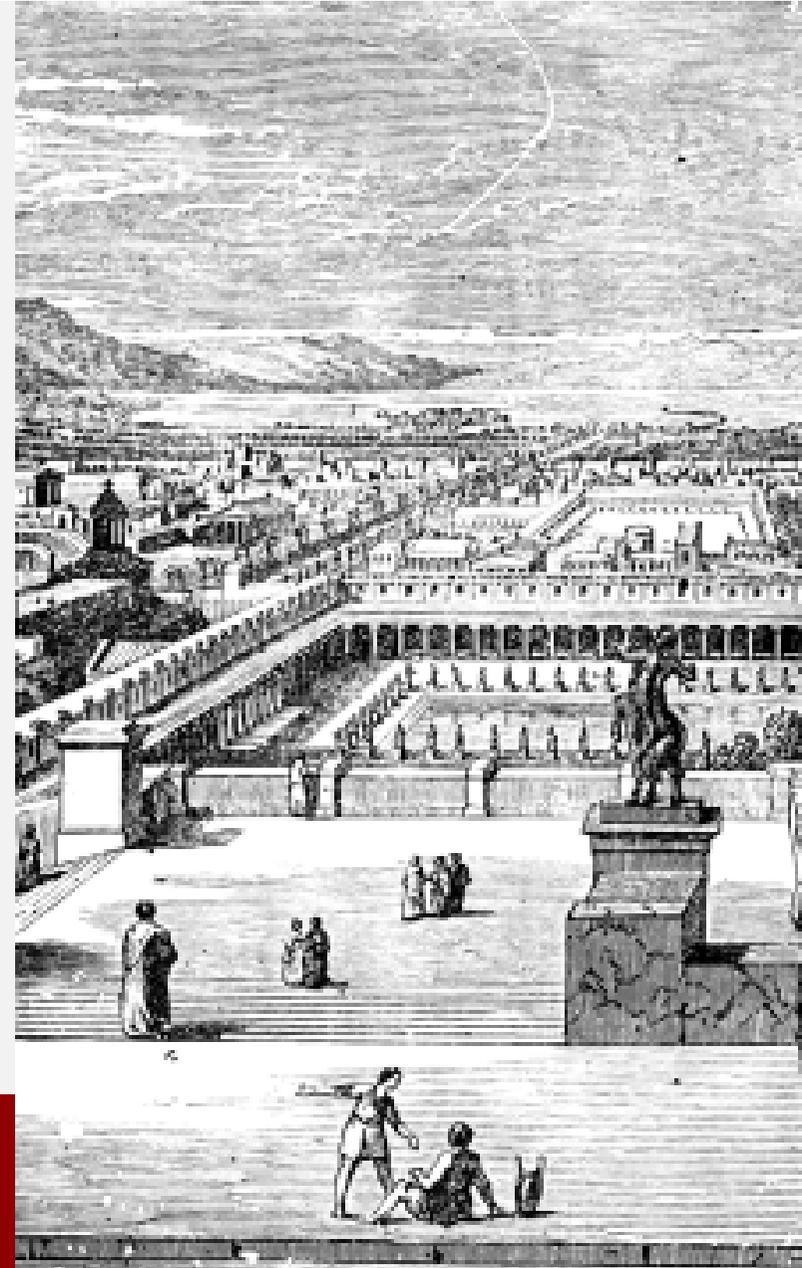


海を挟んで約250km
陸路を廻れば約1,000km

【コリントとコリント教会】

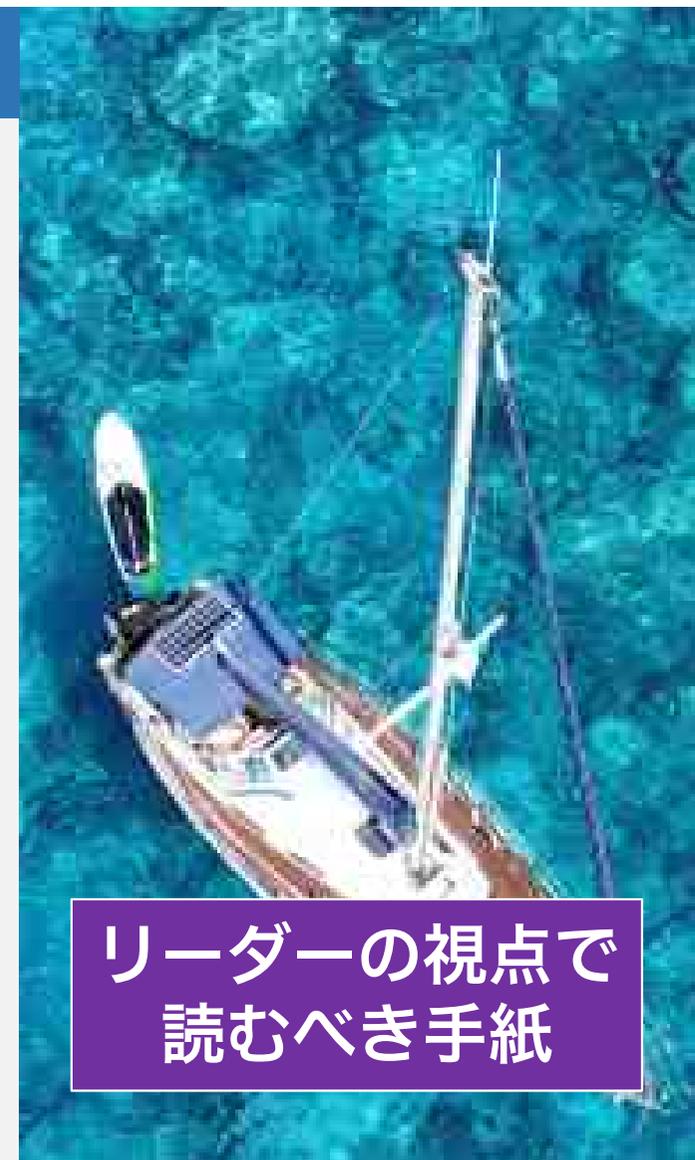
- アカヤ州(ギリシャ南部)の州都
国際都市。ローマ人、ギリシャ人…etc。
かなりの規模のユダヤ人共同体も存在。
- **不道德**の町。少年への性愛、複数の愛人。
神殿娼婦の存在。 **偶像崇拜**が蔓延。
- 異邦人信者が主流。偶像への警戒の薄さ。
基本的教理からの逸脱。自由のはき違え。

第一の手紙の後に変化はあったのか？



第二の手紙の特徴・テーマ

- 第一の手紙は、コリントの信徒もよく知っているはずの**信仰のイロハのイ**を確認するもの。
- 変化もあった一方で、パウロに強まる反感も。
 - ① グッドニュース…罪を犯した人の悔い改め
 - ② 残念なニュース…献金が集まっていない
 - ③ バッドニュース…パウロの使徒性への疑い
- **伝えるべきこと**は、第一の手紙に執筆済み。さらに加えるとすれば、**パウロ自身の思い**。
→ **感情**が強く表れた手紙になっている。



リーダーの視点で
読むべき手紙

パウロの思いをくみ取り、リーダーとして私の信仰を成長させよう



I. ささげる恵み IIコリント8章1～15節

【与えられた神の恵み】 II コリ 8:1

さて、兄弟たち。私たちは、マケドニアの諸教会に与えられた神の恵み*を、あなたがたに知らせようと思います。

■ マケドニアの人々は、誰よりも熱心に喜んでささげた。

→ “ささげたこと”が、与えられた神の恵み



【貧しさからのあふれる喜び】 Ⅱ コリ8:2

彼らの満ちあふれる喜びと極度の*貧しさ*は、
苦しみによる激しい試練の中にあってもあふれ
出て、惜しみなく施す富となりました。

*“深い” …ここ以外はすべて“深い”と訳出。

➔ 枯れた種は根が“深く”なかった。

➔ 深くまで根を張った種が豊かな身を結ぶ。

*心の貧しい者は幸い。

■ 心の深奥まで己の貧しさを味わい知った者は、
神の深みから湧き出す喜びに満ち溢れる。



貧しさの極みが
喜びの源泉

【大きな慰めの後に】 II コリ 8:3~4

私は証しします。彼らは自ら進んで、力に応じて、また力以上に献げ、聖徒たちを支える奉仕の恵みに*あずかりたいと、大変な熱意*をもって*私たちに懇願しました。

*“もてなしの恵みと交わり”

*パラクレセオス …他では“慰め”と訳される

*メタ …“…の後に”“…と共に”

■ マケドニアの信者は、“大きな慰めの後に”エルサレムの聖徒のためにささげることをお願いした。



ささげる恵みを
知っていたからこそその
強い願い

【まず自分自身を主に献げ】 II コリ 8:5~6

そして、私たちの期待以上に、神のみこころにしたがって、**まず自分自身を主に献げ***、私たちにも委ねてくれました。

それで私たちは、テトスがこの恵みのわざをあなたがたの間で始めた*からには、それを成し遂げるようにと、彼に勧めました。

* 献身が献金のはじめ。基盤。

救われた = 主のものとされた

* テトスが、マケドニアの人々の熱意に押され、献金を集め始めたと分かる。



【豊かなコリント】 II コリ8:7

あなたがたはすべてのことに、すなわち、信仰にも、ことばにも、知識にも、あらゆる熱心にも、私たちからあなたがたが受けた愛にもあふれています*。そのように、この**恵みのわざ**にもあふれるように*なってください。

*ペリセウオー …まさっている。豊かである。

■信仰も知識も、熱心も、与えられた愛も、コリントの人々は勝っているのだから。

→コリントは、経済的にも知識的にも、マケドニアより、はるかに豊かだった。



献金は 恵みのわざ

【確認される愛】 Ⅱコリ8:8

私は命令として言っているのではありません。
ただ、他の人々の熱心さを伝えることで、あなたがたの愛が本物であることを確かめようとしている*のです。

*愛は愛の業に応える。

■主を愛する信仰者であるなら、兄弟姉妹の信仰の証しを聞いて、何もしないでいられるはずがない!!

→他者の証しを聞くとき、常に問われること



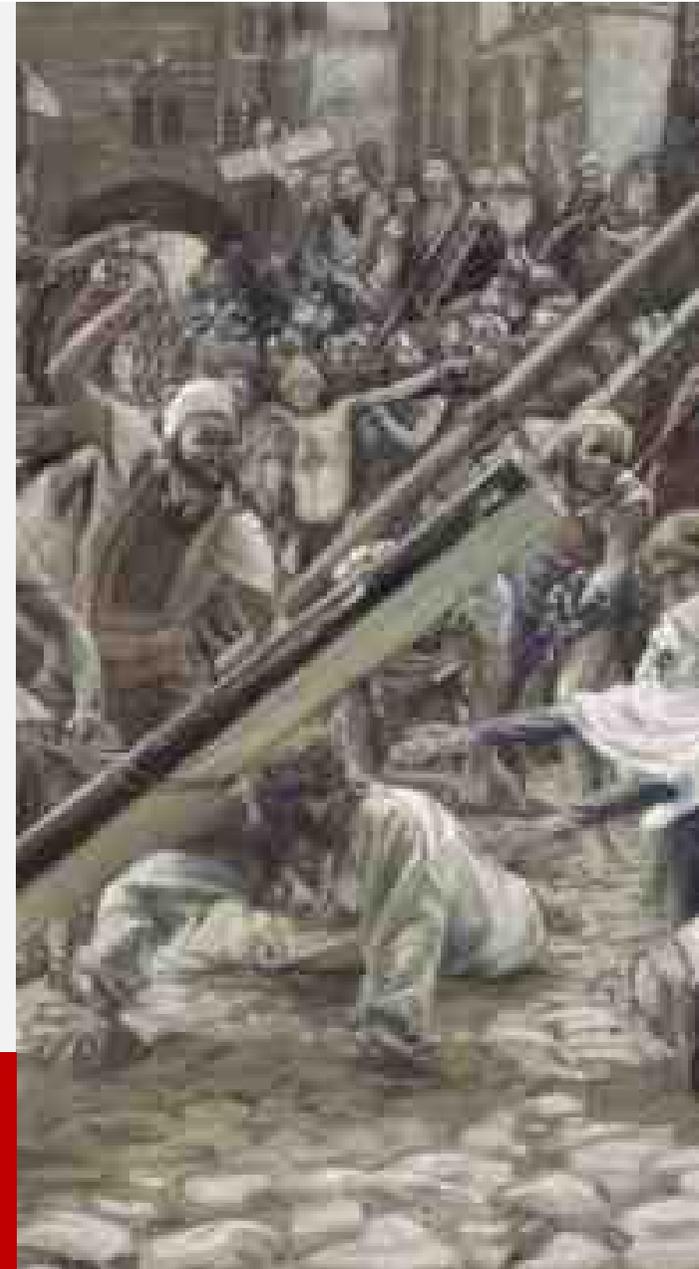
問われているのは
コリントの人々の
誇りの内実

【キリストの貧しさのゆえに】 Ⅱコリ8:9

あなたがたは、私たちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。それは、あなたがたが、キリストの貧しさによって富む者となるため*です。

*コリントの人々の豊かさは、
すべて、キリストの貧しさの上にある。

私たちを富ませるために 十字架にかかられた
主イエスの恵みを覚えよう



【コリントでの献金】 Ⅱコリ8:10

この献金*の**こと**について、私の意見を述べましょう。それがあなたがたの益になるからです。あなたがたは献金を実行することだけでなく、その志を持つことも、昨年**から始めて他に先んじていました***。

*エルサレムの聖徒たちのための献金

*献金を呼びかけ、実行し始めたのは、

コリントの方がマケドニアより先立った!!



【やり遂げなさい】 II コリ8:11~12

ですから今、それをやり遂げなさい。喜んでしようと思った*とおりに、持っているものでやり遂げてください。

喜んでする思い*がある(そこにある)なら、持っ(持つ)ていないものに応じてではなく、持っ(持つ)ているものに応じて受け入れられる*のです。

*赤字が動詞。

*名詞 “非常な熱心” “熱望”

*紫は形容詞 “受け入れられるような”

➔パウ口節が炸裂!! ネイティブにも難解?!



接続詞と代名詞ばかりで
何を指すのか分かりづらい

【直訳の私訳】 Ⅱコリ8:11

ですから今、“それ”をやり遂げなさい。“喜んでしようと思ったとおりに、持っているものでやりとげることを”

なぜなら、神への熱心さは、受けいれられるものを持っていないところではなく、持っているところにあるのだから。



■ひねった表現の前提にあるパウロの論理

- ① 献金できる → ② 神に受け入れられるものを持っている
- ③ 信仰的に熱心である。(逆もしかり)

献金は、神に受け入れられた特権の行使・信仰の証し

【批判に答えて】 II コリ 8:13~14

私は、他の人々には楽をさせ*、あなたがたには苦勞をさせようとしているのではなく、むしろ平等になるように*図っています。

今あなたがたのゆとりが彼らの不足を補うことは、いずれ彼らのゆとりがあなたがたの不足を補う*ことになり、そのようにして平等になるのです。

*「エルサレムの聖徒に楽をさせるのか」

「不平等だ」という文句があったと分かる。

* 献げた人が体感させられること



【主が満たされる必要】 Ⅱコリ8:15

「たくさん集めた人にも余ることはなく、少しだけ集めた人にも足りないことはなかった*」と書いてあるとおりです。

*天からのパン・マナのこと。出エジプト16章

➔一人一人、体格も食欲も必要な量も違うが、イスラエル全員が必要を満たされた。

■献金において問われるのは、主への信頼。

主が必要を満たされる。信頼から献げ、主は信頼に応じて必要を満たしてくださる。





Ⅱ. 同労者の推薦

Ⅱコリント8章16～24節

【テトスの派遣】 II コリ8:16~17

神に感謝します。私があなたがたのことを思っているのと同じ熱心を、神はテトスの心にも与えてくださいました。

彼は私の勧め*を受け入れ、大変な熱意をもって、自分から進んであなたがたのところに行こうとしています。

*“パラ・クレシス” …傍らに・呼びよせる
ほとんどの場合には、“慰め”と訳される。

主に呼びよせられた者は、遣わされる



【一人の兄弟】 II コリ 8:18~19

私たちはテトスと一緒に一人の兄弟*を送ります。この人は福音の働きによって、すべての教会で称賛されています。そればかりでなく、彼は、この恵みのわざに携わる私たちの同伴者になるようにと、諸教会の任命を受けています。私たちはそのわざに、主ご自身の栄光*と私たちの熱意を現すために仕えています。

*紹介するまでもなく、よく知っていた人物。

➔エルサレム献金に携わる同伴者の一人



【公正】 II コリ 8:20～21

私たちは、自分たちが携わっているこの惜しみないわざについて、だれからも非難されることがないように*努めています。

主の御前だけでなく、人々の前でも正しくあるように*心がけているのです。

*コリント教会とも親しい「一人の兄弟」は、献金活動の公正さの証人の役割を担った。

➡監査？



【熱心なもう一人の兄弟】 || コリ8:22

また、彼らと一緒にもう一人、私たちの兄弟*を送ります。この兄弟が多くのことについて熱心であることを、私たちは何度も認めることができました。彼は今、あなたがたに深い信頼を寄せ、ますます熱心になっています。

*パウロが信頼し、コリントを熱く愛する
もう一人の人物が同行。

■パウロの代行であるテトスと、
証人でもある二人の同行者が、コリントへ



万全を期すパウロ

【求められる愛の証拠】 II コリ 8:23～24

テトスについて言えば、彼は私の仲間であり、あなたがたのために働く同労者です。私たちの兄弟たちについて言えば、彼らは諸教会の使者であり、キリストの栄光です。

ですから、あなたがたの愛の証拠と、あなたがたを私たちが誇りとしている理由を、彼らに対して、諸教会の前に示してほしいのです。

■ 栄光を帯びた神の愛の使者である同労者を愛をもって喜び、受け入れるよう願うパウロ。

問われているのは、
愛に対する愛の応答



Ⅲ. まとめと適用

聖書の原則に従って献げよう

マケドニアの山々

パウロのコリントへの呼びかけの意味

- 先んじて、エルサレム献金を募り始めたコリントなのに、停滞。第一の手紙でも促したのに、数年過ぎても停滞したまま。
- ひねりも効かせつつ、パウロが問うのは、当たり前前の信仰の原則。「本当に恵みを受け取っているなら、当然喜んで献げるよね」と。
- 献金の呼びかけの発端だったコリントの人々は、当然知っていて、自分たちも口にしていた原則を、問われる事態になっている。

異邦人信者のユダヤ人信者への献金の原則

ローマ 15:27 「彼らは喜んでそうすることにしたのですが、聖徒たちに対してそうする**義務**もあります。異邦人は彼らの霊的なものにあずかったのですから、物質的なもので彼らに奉仕すべきです。」

- ① ユダヤ人信者の同胞からの排除、エルサレム信者の困窮が背景に。
- ② 異邦人信者が多数だったコリントはじめ、マケドニアの諸教会も喜んで献金に参加した。
- ③ 霊的恵み、福音は、ユダヤ人から、異邦人にもたらされた。
ユダヤ人信者を支えることは、すべての異邦人信者の**普遍的義務**

聖書の原則が教える 献金できるという恵み

- ネイティブも困惑するほど、ひねりを効かせたパウロの手紙。
しかし、伝えようとしているのは、極めてシンプルな聖書の原則。
- シンプルな、パウロの論理を理解しよう。
 - ★ 大前提は、**献金を献げられることが恵み**だということ。
 - ➡ 献げ物は、神の民・信仰者に与えられた**特権**。
 - ★ 異邦人が献金できる大変な恵み。➡ マケドニアは知っていた。
- ① 献金できる ➡ ② 神の恵みを受け取っている ➡ ③ 信仰深い

★ 常に先立つ主の恵みを覚えよう ★

- 罪人の私のために、主イエス・キリストは、十字架にかけられ、死んで葬られ、死を打ち破って復活された。
ただ、この**福音**を信じて、永遠の命の恵みを受けた。
- **先立つ途方もない恵み**を、私たちはすでに受けている。
この恵みは、イスラエルを通して、異邦人にもたらされた。
- 神の民とされたイスラエルが、喜んで主に献げたように
私たち異邦人信者も、喜んで献げよう。主が受け取ってくださる。
神の宮とされた私を、主が豊かに用いてくださる。

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの^{つみ あがな}罪を贖うために^{じゅうじか し}十字架で死に、

②墓に葬られ、

③三日目に復活した^{しん}こと、を信じます。

福音は、主が先立って^{ふくいん しゅ さきだ あた}与えてくださった、^{めぐ}はかりしれない恵みです。

すでに^{あた}与えられている ^{とほう めぐ かんしゃ ささ}途方もない恵みに感謝してお^{ささ}献げします。

^{れいてき めぐ}霊的な恵みは、^{とお いほうじん そそ}イスラエルを通して異邦人の私に注がれました。

まず、ユダヤ人の救いのために、^{すく ささ あた}献げる心を与えてください。

イスラエルの回心と、主イエスの^{かいしん しゅ さいりん ま のぞ}再臨の時を待ち望みます。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」